

2011/11/14

柏の景気情報（平成23年10月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成23年10月分）

○ 調査期間 : 平成23年10月24日 ~ 10月27日

○ 調査対象 : 柏市内171事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	171	112	65.5%
建設	47	28	59.6%
製造	36	25	69.4%
卸・小売	49	38	75.5%
サービス	39	21	53.8%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成23年10月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは震災前の値まで回復 放射能への不安感が増す ▶

○10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.0(前月水準▲36.1)となり、マイナス幅が11.1ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、全ての業種のマイナス幅が縮小し、幅の大きい順に、製造業▲32.0(同▲60.8)、卸小売業▲34.2(同▲45.4)、建設業▲10.7(同▲16.6)、サービス業▲19.0(同▲22.7)である。特に、製造業はマイナス幅が28.8ポイントと大幅に縮小した。

【建設業】からは、「県内同業者の倒産もあり、仕事の依頼は増加するが年内はもういっばいでこれ以上受けられない。にも関わらずあいかわらず単価は低迷で採算は厳しい」「公共工事の入札は競争が激しく厳しい」「9月は畳表替えの需要が増えたので増益。畳には裏返しや新畳仕上げもあるので、今後そちらの需要も増えれば増収が見込める」などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「原発関連で遮蔽材の受注はひと段落したが汚染処理対策の受注は継続している」「設備導入に関して食品業界からは顕著な変化は見えてこないため景気は回復しない。電力不足に備え発電機などを購入し来年夏に向けて準備をしていく。タイの洪水で弊社機械導入しているユーザーに影響が出ており支援策を検討中」「稼働日も得意先が従来通りになり、製造納品も安定し、売上もすこしずつ回復に向かっている。おもな輸出先の中国が減速してきているのでこの先の受注量に影響が出るのか」などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「店舗改装に伴いセールを行ったため前年とは全く比べられない。来春商品の展示会発注がほぼ終わったが、本年春と比べ同等の商品の上代設定が一部を除き下がっている」「10月度、初旬から主力の衣料品で、秋物の早期提案やクラシックへのトレンド変化に加え、気温の低下とともにニット・アウターが動き出したことから好調な出足となった。反対に大型雑貨店が売れ筋がなく、若干落ち込んだものの、ラグジュアリーなどの高額商材は依然好調であったことから前年を上回る推移となった。後半に掛けては節電などによる防寒用品の打ち出しを強化するとともに、ウォームビズ需要の取り込みを実施していく」「台風被害による仕入単価の上昇、及び風評被害による価値の低下」などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「いくらか上向き傾向にあります」「あまり話題になっていないが、賃貸住宅管理における管理業登録制度が公布され、管理業務の指針ができ、円滑な業務遂行を期待しているところ」「職員の募集をしても優秀な人材からの応募がありません」などの声が寄せられた。

◎放射能の影響

各業種から、「ホットスポットの影響で戸建て集合住宅建築の見送りを耳にする。近隣空き地には住宅建設もされているが建て替え時期での転居等、空きも目立つ(その他の職別工事業)」「総体的に消費低迷、購買力が無く取り扱い減少しています。また、柏の一部地域に高い放射線量が計測され、このことから風評被害にならぬよう早い対策と安心安全取引をできるよう希望しています。原発の収束やTPPの是非など問題山積していますがしっかりと対応し提供していきます(食料・飲料卸売業)」「外国人利用はほぼ回復傾向にあるが、放射能関連のニュースが殊柏においては後を絶たず先行きへの不安が残る(ホテル)」「放射能汚染がメディアで大きく取り上げられている影響で一般のお客様からの問い合わせが激減しています。業者も値下げをしています。年末にかけてはその傾向がもっと増えてくるものと推測します(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎先行き不安・先行き不透明

各業種から、「公共工事が増えてきたが積算価格は低い。結果的に昨年とおなじ受注があったのだが3ヵ月以上の見通しが無い(電気工事業)」「今後の見通しはかなり厳しい。営業活動に力を入れ好転をねらう(電子部品・デバイス製造業)」「例年10月に入り売上高は上昇するのですがさまざまな値上がり等による先行きの不安感からか上昇率も例年より低く今後も厳しい状況が続くそうです(菓子・パン小売業)」「今夏以降個人旅行消費は戻ってきた感がある。この先の懸念材料としてこの先の景況感が不透明なことによる法人需要の動向が気になり(旅行業)などのコメントが寄せられた。

◎円高

各業種から、「円高により、輸入原材料価格が下落傾向にあるが、タイの洪水被害が天然ゴムに与える影響が懸念される(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)」「円高の影響にて国内設備、国内生産が大きく減少傾向にあり、その影響が大きく出ています(金属加工機械製造業)」「円高とは言われているが商品の原価から見ると反映が遅く下がってはいない。小麦関連乳製品など仕入原価が多少だが上昇している(その他の各種商品小売業)」「円高の割に輸入食材に反映されず、バターは値上げの上に品薄深刻(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲37.6	▲32.3	▲28.0	▲48.7	▲36.0
6月	▲33.3	▲26.4	▲30.7	▲60.5	±0.0
7月	▲28.1	▲20.6	▲24.0	▲43.2	▲15.7
8月	▲35.5	▲23.3	▲37.0	▲54.0	▲20.8
9月	▲36.1	▲16.6	▲60.8	▲45.4	▲22.7
10月	▲25.0	▲10.7	▲32.0	▲34.2	▲19.0
見通し	▲19.6	±0.0	▲20.0	▲23.6	▲38.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成23年10月の業況についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.0(前月水準▲36.1)となり、マイナス幅が11.1ポイント縮小した。

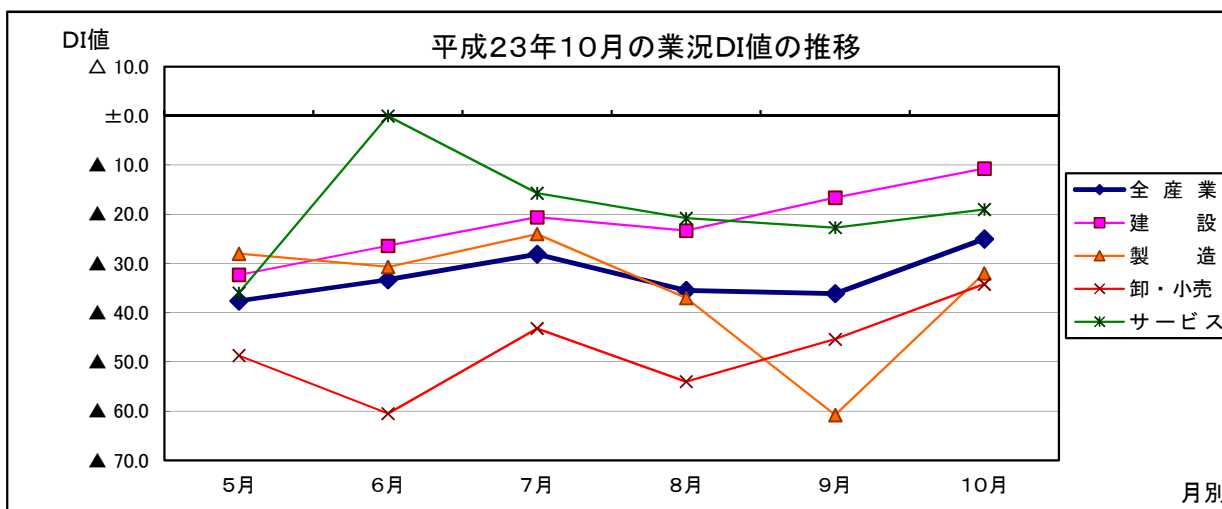
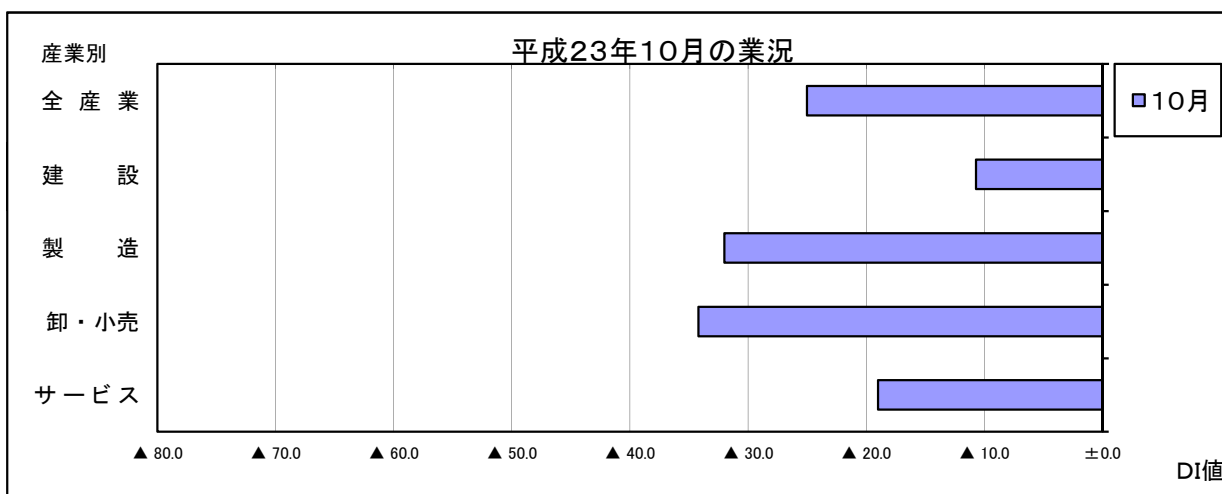
業種別では、前月水準と比べて、全ての業種のマイナス幅が縮小し、幅の大きい順に、製造業▲32.0(同▲60.8)、卸小売業▲34.2(同▲45.4)、建設業▲10.7(同▲16.6)、サービス業▲19.0(同▲22.7)である。特に、製造業はマイナス幅が28.8ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.6(前月水準▲24.0)となり、マイナス幅が4.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲16.6)、卸小売業▲23.6(同▲33.3)、製造業▲20.0(同▲26.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲38.0(同▲18.1)である。

平成23年10月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲37.6	▲33.3	▲28.1	▲35.5	▲36.1	▲25.0	▲19.6(▲24.0)
建設	▲32.3	▲26.4	▲20.6	▲23.3	▲16.6	▲10.7	±0.0(▲16.6)
製造	▲28.0	▲30.7	▲24.0	▲37.0	▲60.8	▲32.0	▲20.0(▲26.0)
卸・小売	▲48.7	▲60.5	▲43.2	▲54.0	▲45.4	▲34.2	▲23.6(▲33.3)
サービス	▲36.0	±0.0	▲15.7	▲20.8	▲22.7	▲19.0	▲38.0(▲18.1)



【平成23年10月の売上についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.0(前月水準▲23.1)となり、マイナス幅が7.1ポイント縮小した。

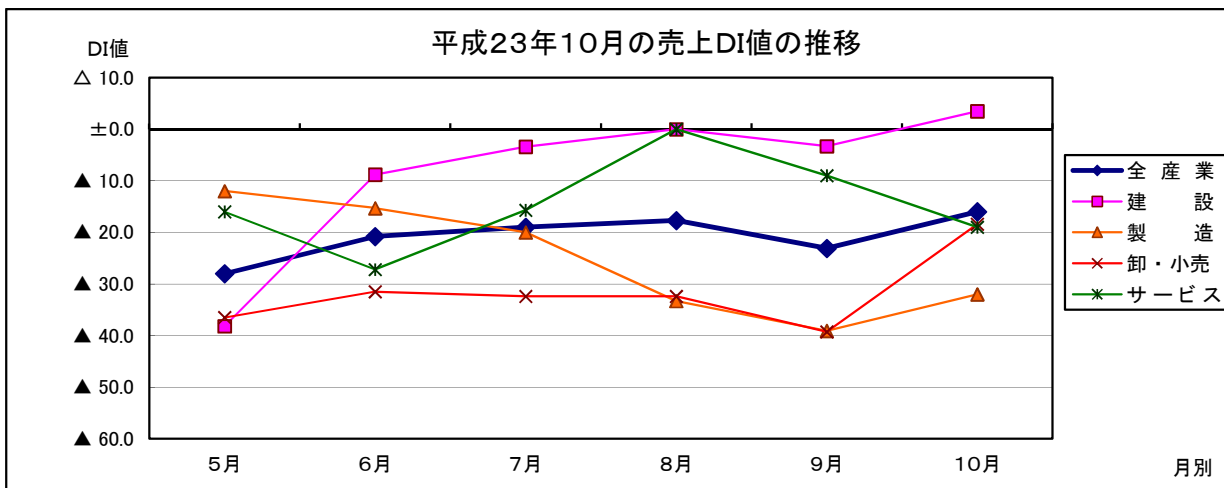
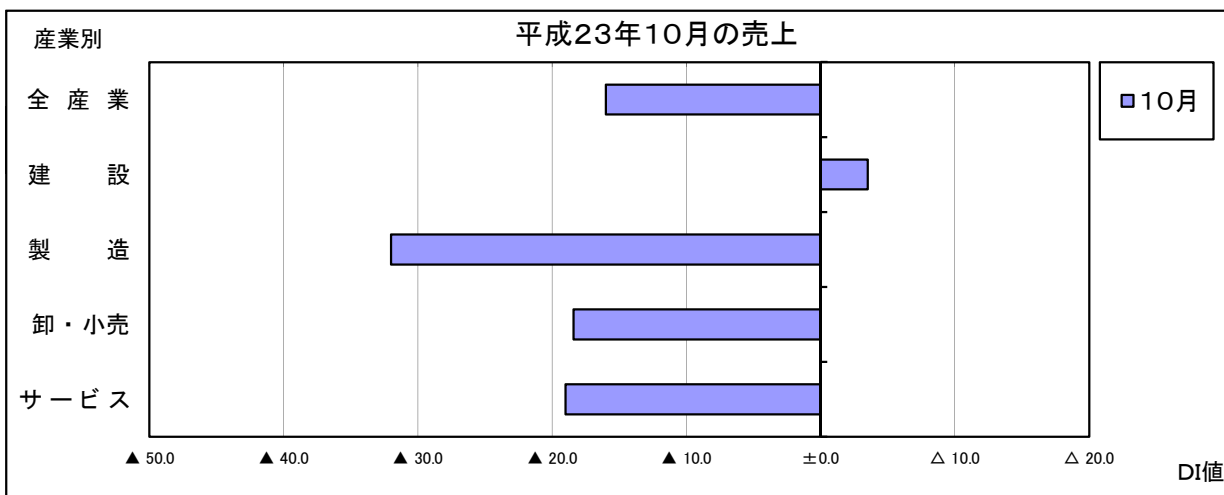
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業3.5(同▲3.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲18.4(同▲39.3)、製造業▲32.0(同▲39.1)である。特に、卸小売業はマイナス幅が20.9ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲19.0(同▲9.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.8(前月水準▲6.4)となり、マイナス幅が▲3.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲10.5(同▲18.1)、製造業▲12.0(同▲13.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同3.3)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲19.0(同△4.5)であり、▲23.5ポイントと大幅に悪化する見通しである。

平成23年10月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲28.0	▲20.8	▲19.0	▲17.7	▲23.1	▲16.0	▲9.8(▲6.4)
建設	▲38.2	▲8.8	▲3.4	±0.0	▲3.3	△3.5	±0.0(△3.3)
製造	▲12.0	▲15.3	▲20.0	▲33.3	▲39.1	▲32.0	▲12.0(▲13.0)
卸・小売	▲36.5	▲31.5	▲32.4	▲32.4	▲39.3	▲18.4	▲10.5(▲18.1)
サービス	▲16.0	▲27.2	▲15.7	±0.0	▲9.0	▲19.0	▲19.0(△4.5)



【平成23年10月の採算についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.8(前月水準▲30.5)となり、マイナス幅が▲4.3ポイント拡大した。

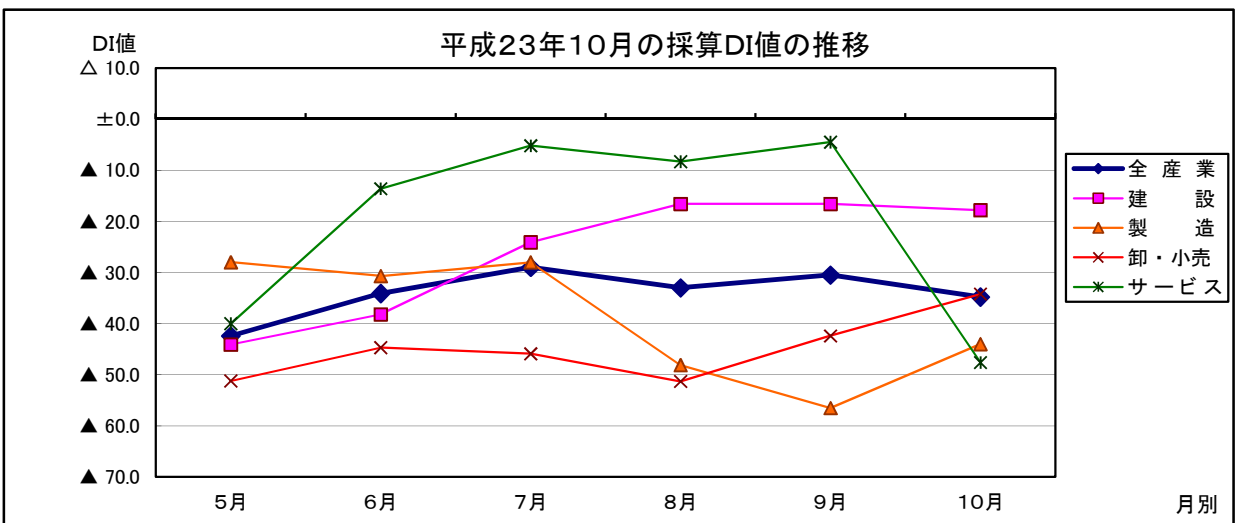
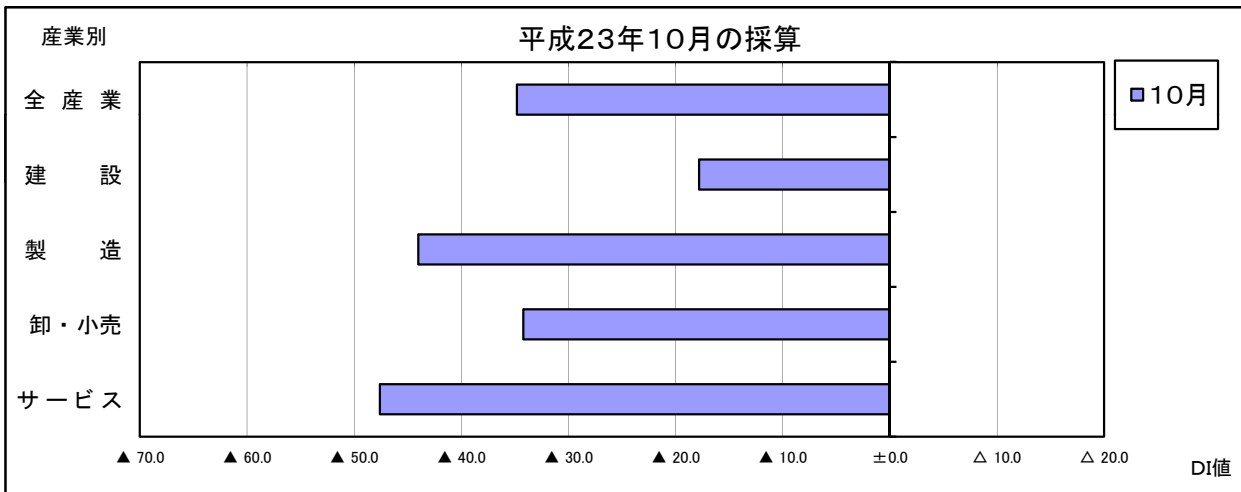
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲44.0(同▲56.5)、卸小売業▲34.2(同▲42.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲47.6(同▲4.5)、建設業▲17.8(同▲16.6)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲43.1ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.6(前月水準▲20.3)となり、マイナス幅が0.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲13.1(同▲24.2)、建設業▲10.7(同▲20.0)、製造業▲24.0(同▲30.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲38.0(同▲4.5)であり、マイナス幅が▲33.5ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成23年10月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲42.4	▲34.1	▲29.0	▲33.0	▲30.5	▲34.8	▲19.6(▲20.3)
建設	▲44.1	▲38.2	▲24.1	▲16.6	▲16.6	▲17.8	▲10.7(▲20.0)
製造	▲28.0	▲30.7	▲28.0	▲48.1	▲56.5	▲44.0	▲24.0(▲30.4)
卸・小売	▲51.2	▲44.7	▲45.9	▲51.3	▲42.4	▲34.2	▲13.1(▲24.2)
サービス	▲40.0	▲13.6	▲5.2	▲8.3	▲4.5	▲47.6	▲38.0(▲4.5)



【平成23年10月の仕入単価についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.8(前月水準▲37.9)となり、マイナス幅が3.1ポイント縮小した。

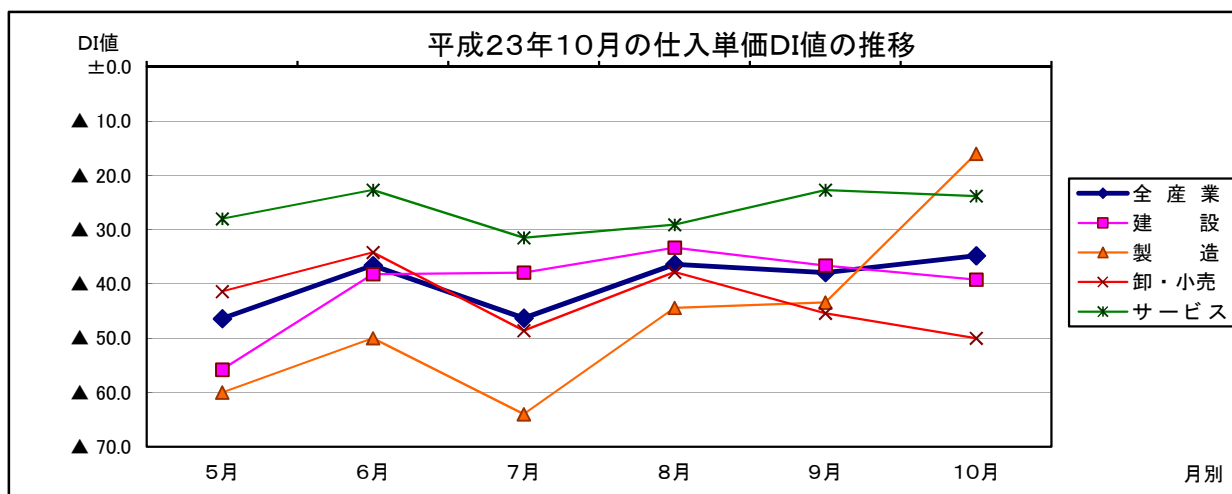
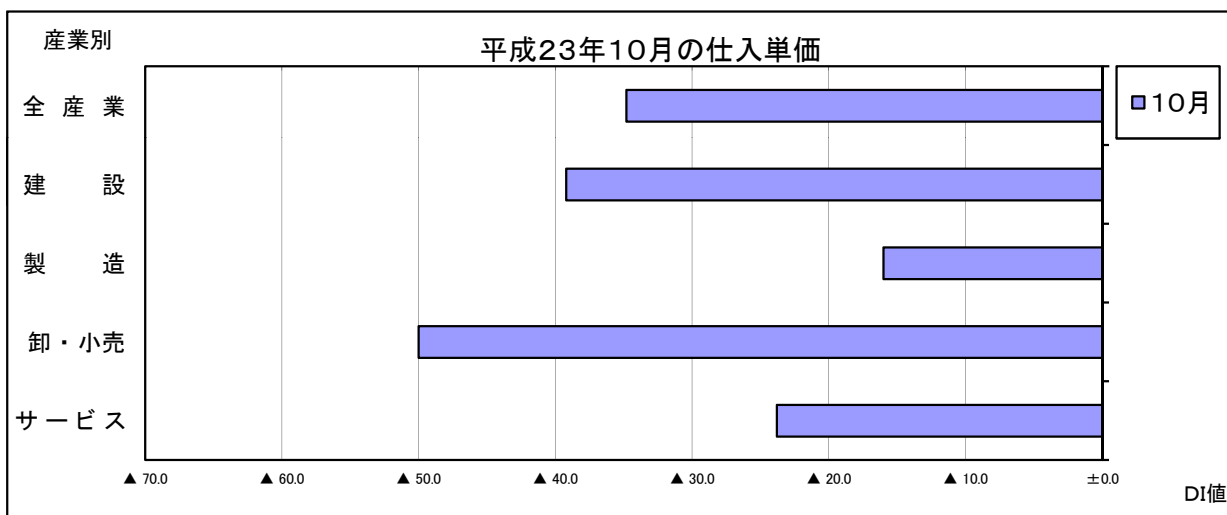
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲16.0(同▲43.4)であり、マイナス幅が27.4ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲50.0(同▲45.4)、建設業▲39.2(同▲36.6)、サービス業▲23.8(同▲22.7)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.6(前月水準▲33.3)となり、マイナス幅が5.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲20.0(同▲34.7)、サービス業▲4.7(同▲13.6)、建設業▲28.5(同▲33.3)、卸小売業▲44.7(同▲45.4)である。

平成23年10月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲46.4	▲36.6	▲46.3	▲36.4	▲37.9	▲34.8	▲27.6(▲33.3)
建設	▲55.8	▲38.2	▲37.9	▲33.3	▲36.6	▲39.2	▲28.5(▲33.3)
製造	▲60.0	▲50.0	▲64.0	▲44.4	▲43.4	▲16.0	▲20.0(▲34.7)
卸・小売	▲41.4	▲34.2	▲48.6	▲37.8	▲45.4	▲50.0	▲44.7(▲45.4)
サービス	▲28.0	▲22.7	▲31.5	▲29.1	▲22.7	▲23.8	▲4.7(▲13.6)



【平成23年10月の従業員についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.3(前月水準▲7.4)となり、マイナス幅が2.1ポイント縮小した。

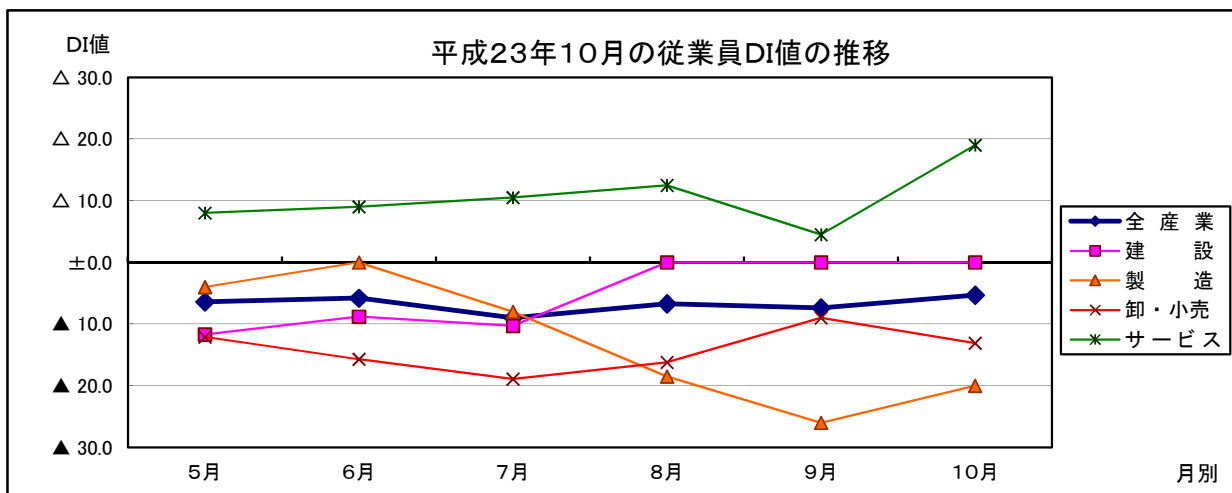
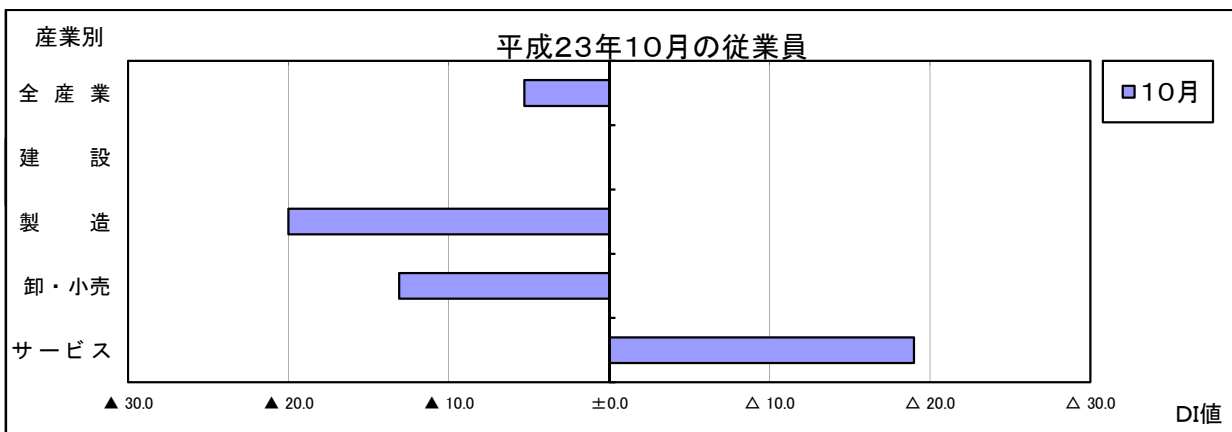
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業19.0(同4.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲20.0(同▲26.0)である。変らない業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲13.1(同▲9.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、1.7(前月水準±0.0)となり、プラス幅が1.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業28.5(同18.1)、建設業7.1(同3.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲20.0(同▲21.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲2.6(同±0.0)である。

平成23年10月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲6.4	▲5.8	▲9.0	▲6.7	▲7.4	▲5.3	△1.7(±0.0)
建設	▲11.7	▲8.8	▲10.3	±0.0	±0.0	±0.0	△7.1(△3.3)
製造	▲4.0	±0.0	▲8.0	▲18.5	▲26.0	▲20.0	▲20.0(▲21.7)
卸・小売	▲12.1	▲15.7	▲18.9	▲16.2	▲9.0	▲13.1	▲2.6(±0.0)
サービス	△8.0	△9.0	△10.5	△12.5	△4.5	△19.0	△28.5(△18.1)



【平成23年10月の資金繰りについての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.9(前月水準▲14.8)となり、マイナス幅が▲2.1ポイント拡大した。

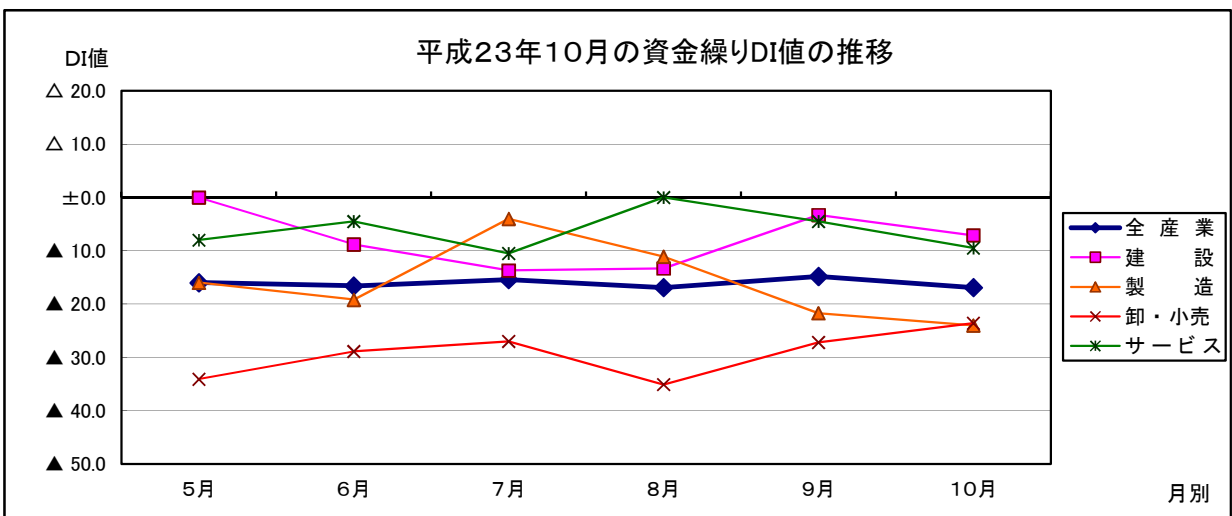
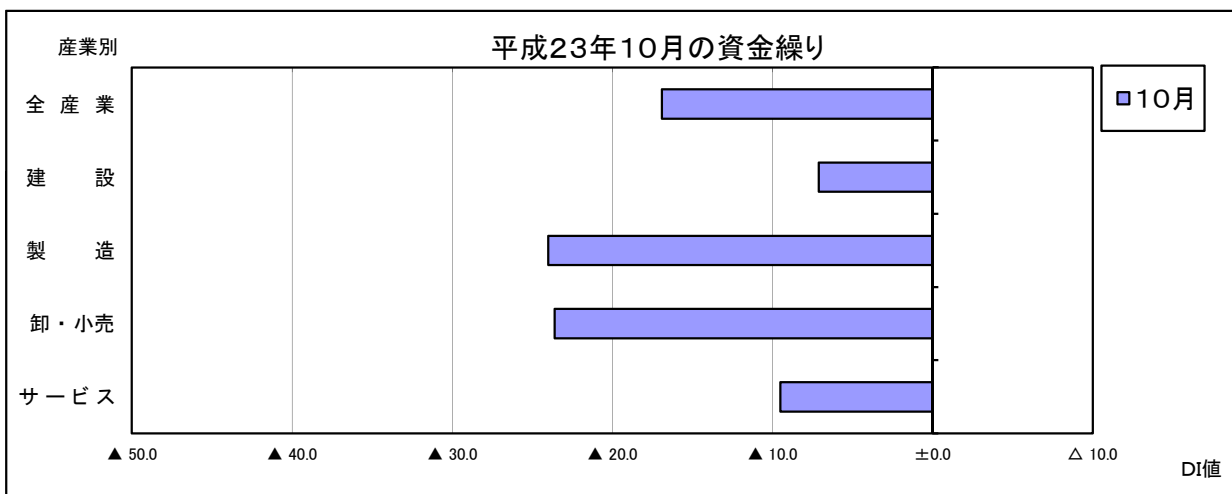
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲23.6(同▲27.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲9.5(同▲4.5)、建設業▲7.1(同▲3.3)、製造業▲24.0(同▲21.7)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.8(前月水準▲9.2)となり、マイナス幅が▲8.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲14.2(同▲4.5)、卸小売業▲23.6(同▲15.1)、建設業▲7.1(同±0.0)、製造業▲24.0(同▲17.3)である。

平成23年10月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成23年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲16.0	▲16.6	▲15.4	▲16.9	▲14.8	▲16.9	▲17.8(▲9.2)
建設	±0.0	▲8.8	▲13.7	▲13.3	▲3.3	▲7.1	▲7.1(±0.0)
製造	▲16.0	▲19.2	▲4.0	▲11.1	▲21.7	▲24.0	▲24.0(▲17.3)
卸・小売	▲34.1	▲28.9	▲27.0	▲35.1	▲27.2	▲23.6	▲23.6(▲15.1)
サービス	▲8.0	▲4.5	▲10.5	±0.0	▲4.5	▲9.5	▲14.2(▲4.5)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 16.0	▲ 9.8	▲ 34.8	▲ 19.6	▲ 34.8	▲ 27.6	▲ 5.3	△ 1.7
建設	△ 3.5	±0.0	▲ 17.8	▲ 10.7	▲ 39.2	▲ 28.5	±0.0	△ 7.1
製造	▲ 32.0	▲ 12.0	▲ 44.0	▲ 24.0	▲ 16.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0
卸・小売	▲ 18.4	▲ 10.5	▲ 34.2	▲ 13.1	▲ 50.0	▲ 44.7	▲ 13.1	▲ 2.6
サービス	▲ 19.0	▲ 19.0	▲ 47.6	▲ 38.0	▲ 23.8	▲ 4.7	△ 19.0	△ 28.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 25.0	▲ 19.6	▲ 16.9	▲ 17.8
建設	▲ 10.7	±0.0	▲ 7.1	▲ 7.1
製造	▲ 32.0	▲ 20.0	▲ 24.0	▲ 24.0
卸・小売	▲ 34.2	▲ 23.6	▲ 23.6	▲ 23.6
サービス	▲ 19.0	▲ 38.0	▲ 9.5	▲ 14.2

【平成23年10月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況		業種
建設	放射能の影響か？新築工事の動きが非常に悪い。住宅エコポイントの復活は明るい話題。	放射能の影響 新築工事低迷 住宅エコポイント	一般土木建築工事業
	県内同業者の倒産もあり、仕事の依頼は増加するが年内はもういっばいでこれ以上受けられない。にも関わらずあいかわらず単価は低迷で採算は厳しい	倒産 受注増加 単価低迷	石工れんがタイルブロック工事業
	公共工事が増えてきたが積算価格は低い。結果的に昨年とおなじ受注があったのだが3か月以上の見通しが無い	公共工事 価格低下 先行き不透明	電気工事業
	公共工事の入札は競争が激しく厳しい	公共工事 競争激化	土木工事業
	公共民間の受注単価		造園工事業
	マスコミで最近頻繁に取り上げられている原発事故関連で、放射能の除染関係の依頼が増えてきている。今後、どのように対応していくか検討中。	放射能の影響 除染	塗装工事業
	ホットスポットの影響で戸建て集合住宅建築の見送りを耳にする。近隣空き地には住宅建設もされているが建て替え時期での転居等、空きも目立つ。受注単価はじわじわ下がり仕入材料単価は上がっている。出来高支払いが主であるが出来高に対する査定が厳しくなった。追加工事に関してはなかなか決裁が下りず現場での支払いや引き渡し後の支払いとなることもたびたびある。提出書類も複雑複数化し事務時間や経費もかかるようになってきている	放射能の影響 風評被害 受注単価低下 支払い遅れ	その他の職別工事業
	やはり放射能問題で人口が減りはじめていたり、連日のようにテレビで放射能の街のような報道が続いていてイメージ悪化は拍にあって最悪な事です。最近キャンセルがポツポツ目立ち始めている事が気になります	放射能の影響 人口減少 イメージ悪化	一般土木建築工事業
	震災、ホットスポットの影響による住宅建設の件数減少	放射能の影響 建設件数減少	ガス業
	カストロ政権の崩壊、世界で発生している地震、アメリカの経済情勢の不安による円高不安の種はつきません。地道にやっていくことが大切だと思います	米国経済情勢不安 円高	塗装工事業
	年内の仕事量はいっばいですが単価が上がりません。来年の仕事は少ないです	仕事減少 単価低迷 先行き不透明	鉄骨鉄筋工事業
	9月は畳表替えの需要が増えたので増益。畳には裏返しや新畳仕上げもあるので、今後そちらの需要も増えれば増収が見込める	9月受注増加	内装工事業
	紙の値段が11月より15%値上げした。売値は上げられないため更にきびしくなった	資材価格高騰 価格転嫁	印刷業
	円高により、輸入原材料価格が下落傾向にあるが、タイの洪水被害が天然ゴムに与える影響が懸念される。	円高 原材料価格下落 タイ洪水	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
今後の見通しはかなり厳しい。営業活動に力を入れ好転をねらう	先行き不透明	電子部品・デバイス製造業	
原発関連で遮蔽材の受注はひと段落したが汚染処理対策の受注は継続している	原発関連受注	特殊産業用機械	
設備導入に関して食品業界からは顕著な変化は見えてこないため景気は回復しない。電力不足に備え発電機などを購入し来年夏に向けて準備をしていく。タイの洪水で弊社機械導入しているユーザーに影響が出ており支援策を検討中	設備導入停滞 電力不足 タイ洪水	その他の機械・同部品製造業	
稼働日も得意先が従来通りになり、製造納品も安定し、売上もすこずつ回復に向かっている。おもな輸出先の中国が減速してきているのでこの先の受注量に影響が出るのか	納品安定 売上回復	その他の金属製品製造業	
円高の影響にて国内設備、国内生産が大きく減少傾向にあり、その影響が大きく出ています	円高 国内生産減少	金属加工機械製造業	

【平成23年10月の業種別業界内トピックス】

製造	円高は今後どうなるのか？安住財務相の介入に対する発言だけで終わるのか？円がどうなったら介入するのか、介入が必要なタイミングとは戦後最高値をつけた今ではないのか？まったく、理解できない。円高によって利益享受している業界からの一般消費へのメリットもまったく感じられない今、日本企業の海外進出を助長する政策を政府がとっているのか。TPPの問題についても交渉の席につくかどうかの議論が未だに行われているようでは、日本がその席にて主導権をとって、TPPが日本に有利になるような道ももう閉ざされてしまったように感じる。TPPによって輸出製造業が外貨を稼いで国内で消費を行わなければ、農業も何も存続できないだろうということがなぜわからないのか？円高に加えてTPP不参加となれば日本はますます国際競争力を失い、衰退の一途をたどり、日本企業の海外進出と技術の流出により生業者であふれかえる国になると考える	円高 企業の海外進出 TPP	その他の金属製品製造業
	EUの経済不安及び米国の雇用経済低迷により円高。またタイの洪水による生産ストップ等不安要素が多く今後の日本経済の先行きが見えない	EU経済不安 米国経済低迷 円高 タイ洪水 先行き不透明	一般産業用機械・装置製造業
	景気の先行き感が不透明である。さらに円高が進むのではないかと、為替差損が気になる。また、ユーロ圏の経済動向も売上に影響しかねない。	先行き不透明 円高 EU経済不安	ガラス・同製品製造業
	仕事が少ない。予算もない 先行き不透明です	仕事減少 先行き不透明	建築用・建設用金属製品製造業 その他の機械・同部品製造業
卸小売	材料価格値上げ要請が来ています。値上げ幅も大きく、売値に乗せられないと経営を圧迫してしまう。客先に値上げを要請中。	材料価格値上げ 経営圧迫	紙製容器製造業
	店舗改装に伴いセールを行ったため前年とは全く比べられない。来春商品の展示会発注がほぼ終わったが、本年春と比べ同等の商品の上代設定が一部を除き下がっている	春物仕入価格下降	婦人・子供服小売業
	円高とは言われているが商品の原価から見ると反映が遅く下がってはいない。小麦関連乳製品など仕入原価が多少だが上昇している。今後秋冬物に期待はしているが気温は高め傾向でピークは遅くなることが予想され、期待される利益は確保できないのではないかと	円高 原価高止まり 秋物不振	その他の各種商品小売業
	10月は秋らしい気候になるのが遅れている事もあり、衣料品の動きも鈍い。柏はホットスポットの報道もあり、生鮮食品、生肉に影響が出ている。ランドセル売り上げが好調であり子ども服関係の売上は良い	衣料品不振 放射能の影響 こども服好調	百貨店
	10月度、初旬から主力の衣料品で、秋物の早期提案やクラシックへのトレンド変化に加え、気温の低下とともにニット・アウターが動き出したことから好調な出足となった。反対に大型雑貨店が売れ筋がなく、若干落ち込んだものの、ラグジュアリーなどの高額商材は依然好調であったことから前年を上回る推移となった。後半に掛けては節電などによる防寒用品の打ち出しを強化するとともに、ウォームビズ需要の取り込みを実施していく。秋の深まりとともに衣料品を中心にアクセサリーブーツ等が売れている。年末に向かい高額商品の売上に期待したい	秋物衣料品好調 高額商品好調 ウォームビズ	その他の各種商品小売業
	食品業界にとって放射能はとても大きな問題です。柏にベクレルセンターが出来ました。簡易的ではありますが、効活用できそうです。	放射能の影響	各種食料品小売業
	例年10月に入り売上高は上昇するのですがさまざまな値上がり等による先行きの不安感からか上昇率も例年より低く今後も厳しい状況が続きます	先行き不安 厳しい業況	菓子・パン小売業
	例年、秋から春の寒い時期が繁忙期なので、期待も込めての回答です。ここ数日の「柏のホットスポット」がニュース等で取り上げられてからか、街中の賑わいが以前ほどではないような気がします	放射能の影響	菓子・パン小売業
	台風被害による仕入単価の上昇、及び風評被害による価値の低下	台風 仕入単価上昇 風評被害	農畜産物・水産物卸売業
	昨年はたばこ値上げの反動で売上げが低かったため、今年は前年対比で売上増の店舗が多い中で当店は競合店の影響で昨年並みに推移している	たばこ値上げ	その他の各種商品小売業

【平成23年10月の業種別業界内トピックス】

	円高の割に輸入食材に反映されず、バターは値上げの上に品薄深刻。	円高 バター品薄	菓子・パン小売業
	売上は去年には達していないが少しずつ上がる見込み。八月はかなり減少し食肉も入荷が少なかったがマスコミが騒がなくなり焼肉店もだいぶ落ち着きが見えます。当店ではユッケを牛肉から馬肉とし、メニューに入れてお客様から反響がありました	売上回復見込み 入荷減少 メニュー変更	農畜産物・水産物卸売業
	お客様が増えた	来店客増加	その他の飲食料点小売業
	秋は野菜果物とも平年だと入荷増そ活発な取引となるようですが、昨今の動きでは主要野菜にばらつきが有り、入荷やや増加で単価安の動き。果実の主要品目では下旬になり平年並み入荷単価安となって、総体的に消費低迷、購買力が無く取り扱い減少しています。また、柏の一部地域に高い放射線量が計測され、このことから風評被害にならぬよう早い対策と安心安全取引をできるよう希望しています。原発の収束やTPPの是非など問題山積していますがしっかりと対応し提供していきます	青果入荷増単価安 購買意欲低下 放射能の影響 風評被害 TPP	食料・飲料卸売業
	生コンの売り上げが今月に集中し前月比132%くらいなので来月からは売上が減少すると思われるがその他指標に変化はありません	売上減少	建築材料卸売業
	財務内容に改善の兆しが見え始めても、別部門で必要経費が発生し前途多難な近年である	経費増加 先行き困難	燃料小売業
	新設営業所が採算に乗るまでは全社の収益にマイナスの影響を与えるが、顧客獲得で採算まで早期にもっていく。これらの影響活動を繰り返すと同時に全般のレベルアップのためには、中間層の意識改革を徹底して教育指導していく必要がある	営業所新設 顧客獲得 社員教育	他に分類されない小売業
	東日本大震災後の忘年会、新年会の季節が近づいていますが不景気と重なって動向が心配です	忘年会 不景気 先行き不安	公衆浴場業
	いづらか上向き傾向にあります	上向き傾向	そば・うどん店
	宿泊は外人客の団体が戻り高稼働を維持するが、INETの販売客数が増え一室単価を落とす事となるが高稼働により昨年と同じ売上を維持することが出来た。但し清掃費、アメニティ等の経費が増えた為、利益は昨対で減少となる。10月はJICAの(マレーシア)、東大・大気海洋研究所(欧米)等の宿泊により、稼働を上げる事が出来たが11月の進捗は厳しい状況である。宴会も製菓関連(新薬発表)の学会が増え昨年を超える事が出来たが、未だ企業の宴席は少ないため11月の進捗は余り良くない状況である。今後も放射能の報道の過熱と言う不安材料が残る	外国人客回復 インターネット販売 売上維持 経費増加 厳しい業況 放射能の影響	ホテル
	客室の稼働率は安定傾向にあるが、昨年比べ、単価は落としている。外国人利用はほぼ回復傾向にあるが、放射能関連のニュースが殊柏においては後を絶たず先行きへの不安が残る。	稼働率安定 単価下降 外国人客回復 放射能の影響 先行き不安	ホテル
	今夏以降個人旅行消費は戻ってきた感がある。この先の懸念材料としてこの先の景況感が不透明なことによる法人需要の動向が気がかり	個人旅行回復 先行き不透明 法人需要	旅行業
サービス	放射能汚染がメディアで大きく取り上げられている影響で一般のお客様からの問い合わせが激減しています。業者も値下げをしています。年末にかけてはその傾向がもっと増えてくるものと推測します	放射能の影響 問合せ減少	不動産管理業
	不動産賃貸部門は円高やタイの洪水の影響が来ないうちに修繕や設備投資を半年ほど前倒しにしました。やはりジワジワと影響は出ると思います	円高 タイの洪水 設備投資	不動産賃貸業
	あまり話題になっていないが、賃貸住宅管理における管理業登録制度が公布され、管理業務の指針ができ、円滑な業務遂行を期待しているところ	賃貸住宅管理業登録制度	不動産賃貸・管理業

【平成23年10月の業種別業界内トピックス】

<p>景況は、前月とほぼ変わらず、更なる悪化を抑えるのが必至です。現在のIT関連を大別すると基幹システム開発作業とMobile携帯端末(スマホ・i)のアプリ開発となっておりますが、基幹システム新規開発は、震災の影響から円高・株価暴落で受注が激減、携帯端末開発は、外見は好調に見えるも、開発は海外(中国・台湾・カンボジア)で開発し、日本では、手直しに特化している状況。よって、短期(1~3月のスパン)の案件のみ。その先が見えてこず。現況からみても年間通して空きの期間が多く発生している。年間の売り上げは低下となる。毎月報告している種まき(プレゼン)とローラ作戦から発見できると思われる(オンリーワン)自社ブランドの開発が必要不可欠。皆様ご支援宜しくお願いします。</p>	<p>円高 受注激減 短期案件 先行き不透明 売上低下 自社ブランド開発</p>	<p>ソフトウェア業</p>
<p>職員の募集をしても優秀な人材からの応募がありません</p>	<p>従業員不足</p>	<p>獣医業</p>

◎放射能の影響

- 放射能の影響か？新築工事の動きが非常に悪い。住宅エコポイントの復活は明るい話題。 一般土木建築工事業
- マスコミで最近頻繁に取り上げられている原発事故関連で、放射能の除染関係の依頼が増えてきている。今後、どのように対応していくか検討中。 塗装工事業
- ホットスポットの影響で戸建て集合住宅建築の見送りを耳にする。近隣空き地には住宅建設もされているが建て替え時期での転居等、空きも目立つ。 その他の職別工事業
- やはり放射能問題で人口が減りはじめていることや、連日のようにテレビで放射能の街のような報道が続いていてイメージ悪化は柏にとって最悪な事です。最近キャンセルがポツポツ目立ち始めている事が気になります 一般土木建築工事業
- 震災、ホットスポットの影響による住宅建設の件数減少 ガス業
- 柏はホットスポットの報道もあり、生鮮食品、生肉に影響が出ている。 百貨店
- 食品業界にとって放射能はとても大きな問題です。柏にベクレルセンターが出来ました。簡易的ではありますが、効活用できそうです。 各種食料品小売業
- 例年、秋から春の寒い時期が繁忙期なので、期待も込めての回答です。ここ数日の「柏のホットスポット」がニュース等で取り上げられてからか、街中の賑わいが以前ほどではないような気がします 菓子・パン小売業
- 総体的に消費低迷、購買力が無く取り扱い減少しています。また、柏の一部地域に高い放射線量が計測され、このことから風評被害にならぬよう早い対策と安心安全取引をできるよう希望しています。原発の収束やTPPの是非など問題山積していますがしっかり対応し提供していきます 食料・飲料卸売業
- 今後も放射能の報道の過熱と言う不安材料が残りそうである。 ホテル
- 外国人利用はほぼ回復傾向にあるが、放射能関連のニュースが殊柏においては後を絶たず先行きへの不安が残る。 ホテル
- 放射能汚染がメディアで大きく取り上げられている影響で一般のお客様からの問い合わせが激減しています。業者も値下げをしています。年末にかけてはその傾向がもっと増えてくるものと推測します 不動産管理業

◎先行き不安・先行き不透明

- 公共工事が増えてきたが積算価格は低い。結果的に昨年とおなじ受注があったのだが3ヵ月以上の見通しが無い 電気工事業
- 年内の仕事量はいっぱいですが単価が上がりません。来年の仕事は少ないです 鉄骨鉄筋工事業
- 今後の見通しはかなり厳しい。営業活動に力を入れ好転をねらう 電子部品・デバイス製造業
- EUの経済不安及び米国の雇用経済低迷により円高。またタイの洪水による生産ストップ等不安要素が多く今後の日本経済の先行きが見えない 一般産業用機械・装置製造業
- 景気の先行き感が不透明である。さらに円高が進むのではないかと、為替差損が気になる。また、ユーロ圏の経済動向も売上に影響しかねない。 ガラス・同製品製造業
- 先行き不透明です その他の機械・同部品製造業
- 例年10月に入り売上高は上昇するのですがさまざまな値上がり等による先行きの不安感からか上昇率も例年より低く今後も厳しい状況が続きそうです 菓子・パン小売業
- 東日本大震災後の忘年会、新年会の季節が近づいていますが不景気と重なって動向が心配です 公衆浴場業
- 今夏以降個人旅行消費は戻ってきた感がある。この先の懸念材料としてこの先の景況感が不透明なことによる法人需要の動向が気がかり 旅行業

◎円高

- ・ カストロ政権の崩壊、世界で発生している地震、アメリカの経済情勢の不安による円高不安の種はつきません。地道にやっていくことが大切だと思います 塗装工事業
- ・ 円高により、輸入原材料価格が下落傾向にあるが、タイの洪水被害が天然ゴムに与える影響が懸念される。 ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム
- ・ 円高の影響にて国内設備、国内生産が大きく減少傾向にあり、その影響が大きく出ています 金属加工機械製造業
- ・ 円高は今後どうなるのか？安住財務相の介入に対する発言だけで終わるのか？円がどうなったら介入するのか、介入が必要なタイミングとは戦後最高値をつけた今ではないのか？まったく、理解できない。円高によって利益享受している業界からの一般消費へのメリットもまったく感じられない今、日本企業の海外進出を助長する政策を政府がとっているのか。 その他の金属製品製造業
- ・ 円高とは言われているが商品の原価から見ると反映が遅く下がってはいない。小麦関連乳製品など仕入原価が多少だが上昇している。 その他の各種商品小売業
- ・ 円高の割に輸入食材に反映されず、バターは値上げの上に品薄深刻。 菓子・パン小売業
- ・ 不動産賃貸部門は円高やタイの洪水の影響が来ないうちに修繕や設備投資を半年ほど前倒しにしました。やはりジワジワと影響は出ると思います 不動産賃貸業

平成23年10月のCCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.0に対し、「CCI-LOBO」が▲34.3で、柏の方がマイナス幅が9.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.0に対し、「CCI-LOBO」が▲27.5で、柏の方がマイナス幅が11.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業で、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲34.8に対し、「CCI-LOBO」が▲32.3で、柏のほうがマイナス幅が2.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業、サービス業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲34.8に対し、「CCI-LOBO」が▲27.8で、柏の方がマイナス幅が7.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.3に対し、「CCI-LOBO」が▲4.3で、柏の方がマイナス幅が1.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.9に対し、「CCI-LOBO」が▲22.2で、柏の方がマイナス幅が5.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業。











平成23年10月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI






業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 25.0	 10.7	 32.0	 34.2	 19.0
CCI LOBO	 34.3	 30.7	 26.2	 37.6	 39.4


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.0	 3.5	 32.0	 18.4	 19.0
CCI LOBO	 27.5	 26.6	 13.7	 32.0	 36.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 34.8	 17.8	 44.0	 34.2	 47.6
CCI LOBO	 32.3	 38.2	 24.9	 31.8	 38.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 34.8	 39.2	 16.0	 50.0	 23.8
CCI LOBO	 27.8	 34.3	 35.6	 19.8	 26.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 5.3	 ±0.0	 20.0	 13.1	 19.0
CCI LOBO	 4.3	 4.8	 3.7	 3.5	 3.4

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.9	 7.1	 24.0	 23.6	 9.5
CCI LOBO	 22.2	 29.0	 17.6	 23.2	 23.5

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間：平成23年10月17日～21日

調査対象：全国の415商工会議所が2889業種
組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、マイナス幅が大幅縮小。震災からの回復基調が続く

10月の全産業合計の業況DIは、34.3(前月比+5.3ポイント)と、今年7月以来の前月比+5ポイント以上の改善。復興需要が牽引役となり、震災からの回復基調が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが30.8と、

今月から+3.5ポイント改善する見通し。第三次補正予算の執行に伴う復興需要の本格化や、冬物商品の売上増への期待が出ている。しかし、超円高を背景とした取引先による生産・販売拠点の海外移転や部材の海外調達の加速に加え、タイの洪水被害拡大に伴う生産への影響など、製造業を中心に先行きを懸念する声も多い。

産業別にみると、業況DIのマイナス幅は、卸売業はマイナス幅が拡大したものの、他の4業種は縮小した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「復興需要に加え、政策効果により省エネ住宅の建設が進んでおり、売上は増加傾向(建築工事業)。」

「復旧・復興の財源確保のために国が行っていた公共事業費5%分の留保が解除されたことから、今後公共工事の発注が増えることを期待(一般工事業)。」

「塩化ビニール管材の仕入価格が15%値上がりし、採算が悪化(管工事業)。」

【製造業】「取引先の増産により受注は増えているが、現在の円高水準が続くと、取引先が生産計画を下方修正するのではないかと心配(自動車部品製造業)。」

「今年1月から上昇を続けてきた原材料価格が今月に入り低下し、採算が改善(プラスチック製品製造業)。」

「タイにおける洪水の影響で、取引先の生産が激減。取引先の今後の生産方針によっては自社の受注に大きな影響が及ぶ見通し(電子部品包装材料製造)。」

【繊維品卸売業】「茶葉の風評被害が収束する見通しが立たない。ここに来て仕入先の倒産・廃業も増えており、厳しい状況(茶類卸売業)。」

「円高還元セールを実施している取引先から15%の値引き要請をされた(服飾付属卸売業)。」

【小売業】「気温の低下に伴い、衣料品・こたつや寝具等、冬物商品の売上が好調(総合スーパー)。」

「震災で落ち込んだ消費マインドが着実に回復。高額品の売上が伸びている(百貨店)。」

「石油ストーブ等の冬物商品を発注しても、品薄状態のため確保が困難な状況(日用品小売業)。」

【サービス業】「ビジネス客が例年より多く、徐々に宿泊客数に回復の兆しがみられる(旅館)。」

「円高の影響で取引先の輸出が減少し、輸送量が落ち込んでいる(運送業)。」

「タイでの洪水により、自動車部品の現地生産および輸入ができるかどうか見通しが立たず、今後の影響を懸念(自動車整備業)。」

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲54.4	▲56.1	▲48.6	▲59.1	▲54.8	▲57.2
6月	▲51.4	▲52.7	▲40.3	▲59.8	▲51.0	▲59.9
7月	▲40.0	▲45.8	▲32.9	▲47.3	▲35.1	▲45.9
8月	▲36.5	▲48.4	▲28.1	▲35.4	▲38.9	▲35.5
9月	▲39.6	▲38.2	▲33.5	▲34.7	▲45.8	▲42.8
10月	▲34.3	▲30.7	▲26.2	▲38.8	▲37.6	▲39.4
見通し	▲30.8	▲35.5	▲26.8	▲32.4	▲30.1	▲31.9

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI